様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６８５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０２３８

研究課題名（和文）宮沢賢治の草稿生成論的研究－『風の又三郎』を中心に－

研究課題名（英文）Studies of the Genesis of Miyazawa Kenji's Manuscripts, focusing on "Kaze no Matasaburo (Matasaburo of the Wind)"

研究代表者
平澤　信一（Hirasawa, Shinichi）

明星大学・教育学部・教授

研究者番号：２０２７０３１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：未来の子供に安心して与えられる『風の又三郎』の新字新仮名の流布本文が必要であるという共通理解のもとに本研究を試みた。同作は、作者・宮沢賢治が完成することができずに、亡くなってしまったものであり、未解決の問題が数多くあるからだ。
例えば「三年生」の問題----草稿一枚目には「三年生がないだけであとは」と記されていながら、あとから「三年生」は何人も登場してくるのだ。筆者は、そうした問題も踏まえて現代詩人との研究報告書も作成した。研究分担者の栗原敦、杉浦静は、筑摩書房から新たに刊行中の『宮沢賢治コレクション』の編纂委員として、いままた現場で活躍している。

研究成果の概要（英文）：We started these researches under the common understanding that a new reliable text for young readers of "Kaze no Matasaburo" is necessary. Miyazawa died before he completed the story, so there remain many unresolved textual problems.
For instance, there is the question of "third graders": the first page tells us that "there is no third grader," but after a while several third graders appear in the story. Shin-ichi Hirasawa compiled a paper on the subject in collaboration with several contemporary poets. Atsushi Kurihara and Shizuka Sugiura of our research group are currently active in the compilation committee of the new series "Miyazawa Kenji Collection" published by Chikuma Shobo, which are meant for general readers.

研究分野：日本近代文学

キーワード：宮沢賢治　風の又三郎　草稿研究　児童文学

１．研究開始当初の背景

宮沢賢治の書き記したテキストが、絶えざる生成と解体とを繰り返し、ある時は、一つの作品と見えたものが複数の作品に分岐し、またある時は、思わぬ形で交錯・融合して、ひとつの作品として立ち現れてゆく様については、『校本宮沢賢治全集』(1973-77)による全面的な資料公開(主として活字データによる)を経て以後、そのおおよその姿が捉えられるようになった。だが、それら作品ごとの諸相の具体的な検証となると、対象は膨大で、われわれはまだ、その追跡の途上にあるのだと言わざるを得ない。

この先、遺された原稿が次々に発見されるという、夢のような事態は想定しがたいが、一方で、いま宮沢賢治イーハトーブ館にあるＣＤ－ＲＯＭに収められた三千枚に及ぶ原稿は、例えば『新校本宮沢賢治全集』(1995-2009)によって、『連れて行かれたダアリヤ』(『まなづるとダァリヤ』先駆形異稿)という新たなヴァージョンが掲出されたことなどからも窺えるように、未来の新たな本文生成の可能性を孕みつつ、読者・研究者などに対して、あくまでも開かれていなければならない。

賢治が晩年に執筆し、未完のまま遺された少年小説『風の又三郎』には、天沢退二郎が指摘した「三年生」の問題というのがある。草稿冒頭の分教場の記述に、作者は推敲時に「三年生がないだけで」という加筆をしているが、そのあとの部分では、三年生が何人もいることになっているという問題である。この問題については、最初の子供向け刊本である羽田書店版の坪田譲治編『風の又三郎』や、いまも書店に並ぶ岩波文庫版の谷川徹三編『風の又三郎』では、「三年生」を「一二年生」と読み替えたり、「四年生」に直すなどのつじつま合わせをしようとして、却って一部に新たな矛盾を生じていた。現在、最も信頼できる流布本、すなわち『校本宮沢賢治全集』の研究成果を反映した、ちくま文庫版全集(1985-1986)の編者である天沢退二郎は、逆に「三年生がないだけで」という記述を採用しなければ、あらゆる矛盾は生じないことに気づき、これを削除した。現行の流布本がこれに倣い、「三年生がないだけで」を採用していないのである。

また、従来のちくま文庫版全集は、研究代表者が務める大学の授業でも、教育学部のテキストとして用いてきたが、これは旧仮名を原則としており、今の中学・高校生が親しむ本文としては、いささか荷が重い。賢治テキストの魅力を伝えることを第一義とする場合、おそらく不充分である。いままさに新字新仮名の新しい全集が用意されなくてはならず、そのためには、より精密な草稿の研究が欠かせないというのが、研究の背景だ。

２．研究の目的

本研究は、宮沢賢治の自筆草稿の再検討と、新字新仮名の流布本文の作成を目指すものである。1896(明治 29)年 8 月に岩手県花巻市に生まれ、1933(昭和 8)年 9 月に亡くなった詩人・童話作家の宮沢賢治は、凄まじい詩的営為の跡を遺して、多くの作品を活字化しないまま、この世を立ち去った。その遺された草稿を、生成論的な立場から、ここでは再評価しようとするものである。具体的には、宮沢賢治イーハトーブ館が所蔵する CD-ROM からプリントアウトした精密複写原稿を、複数の研究者で分析する。その多様なテキストの在り様を、どのように後続の世代に伝えれば良いか。様々な新しい文脈の発見と、その動態をできるだけ多くの読者(殊に賢治が望んでいた中学･高校生)に伝え得る平成版流布本文の作成を開始することが、本研究の主たる目的である。

３．研究の方法

本研究は、宮沢賢治イーハトーブ館が所蔵する草稿データを各研究分担者や協力者が共有し、賢治テキストに対する理解を深めることによって、新字新仮名の新たな流布本文を作ることを最終的な目的としている。その際、学術的な判断を基本に据えながらも、書くことの現場で活躍する実作者たちの思いを尊重する。本文研究班に対する詩的評価班の設定である。現在、最も信頼に足る『新校本宮沢賢治全集』の刊行を担った天沢退二郎と入沢康夫が、研究者であると同時に優れた現代詩人であったことは、宮沢賢治研究にとって、きわめて幸運なことであったが、お二人のような特別な才能を持つ後進は、その後、育っていない。だが、研究代表者の平澤信一および分担者の岡村民夫は、野村喜和夫や吉田文憲を中心とする現代詩人たちとの研究会にも参加しており、そこでは複雑な問題点を整理して、書く側に立った率直な意見を求めることができる。これにより、学術的でありながら、しかも創造的な成果が生まれてくるだろう。本計画は、そうした意味で、天沢、入沢両氏の後を継ぐ研究体制の基盤形成でもある。

４．研究成果

(1)宮沢賢治イーハトーブ館で、『風の又三郎』16 枚、『風野又三郎』67 枚、『種山ケ原』26 枚、『さいかち淵』20 枚の表面の草稿データをプリントアウトし、各研究分担者に送付した。それぞれの確認・判読作業の結果、表裏両面に書き込みのある草稿の撮影・保存状態を確認する必要が生じ、研究代表者が宮沢賢治イーハトーブ館に出向いて、これまで未確認だった保存状態を一枚一枚、確かめた。手元に所持しているモノクロコピーと比べて、インクの染みが広がっているものや撮影時の光の当て方によって、モノクロコピーよりも却って見にくくなっているデータがあること

が判明した。花巻市による草稿のＣＤ－ＲＯＭデータ化の後、初の一覧作業を終え、カラーでデータ化した後も、かつてのモノクロマイクロフィルムを保存しておいた方が良いと分かった。それぞれの研究者ごとに、更なる確認作業を進めている。

研究代表者の平澤は、草稿確認作業の一環として、本文読解を深め、2013 年 6 月 23 日、国学院大学国文学会春季大会において、「『風の又三郎』ふたたび－流布本文と《耕一／耕介》の問題－」と題する研究発表を行った。これは先駆稿『風野又三郎』九月一日に登場する《耕介》が、二日以降に登場する《耕一》と同一人物であることを、草稿上で確認し、《耕介》は『風の又三郎』への推敲過程で登場するものと考え、『風野又三郎』の本文としては、《耕一》に戻した方が、作品上のキャラクターが一貫することを主張したものである。

(2)前年度の『風の又三郎』草稿表面の複写に続き、裏面およびメモの複写を終えた。予定よりも時間がかかったが、これでカラー版複写稿がすべて揃ったことになり、それぞれの研究分担者による読み解き作業が進められている。カラー版複写稿が揃って、改めてわかったことは、前年度、報告したモノクロ版マイクロフィルムの今日においても失われない重要性に加え、校本全集・新校本全集編纂者である天沢退二郎、入沢康夫が残した、筆記具の種類などを記した、これもモノクロ版の草稿コピーの価値である。カラーコピーでもわからないペンの種類の判別などまでが書き込まれてあり、これを受け継ぐことの重要性が再確認された。研究代表者は、『風の又三郎』の一部についてだけ、このコピーを譲り受けたが、他の作品についても、保存が望まれる。校本全集の編纂方針を決める際に、どのような全集が参照されたのかについても、入沢氏からご教示を得た。大岡昇平は、校本全集の宣伝用パンフレットに、推薦文を寄せているが、それは大岡の『中原中也全集』『定本富永太郎詩集』のテキスト・クリティックから、校本全集が、その異稿の収録方針を受けついだためである。研究分担者の杉浦静は科研費課題「富永太郎直筆原稿の画像データベース化による文学テキストの生成研究」を 2014 年 3 月に完了したが、これにより杉浦が次代の宮沢賢治全集のあるべき姿を検討する一環としての富永研究と本研究が、ようやく接続された。校本、新校本と、活字による草稿の開示では、最前線にあった宮沢賢治の草稿研究が、ＤＶＤ版の太宰治の草稿公開などに、やや遅れを取っていることも改めて考え直さなければならない。2015 年 3 月には、「九月八日」の章を中心として、『風の又三郎』自筆草稿第 60 葉のモノクロ写真版を含む「宮沢賢治『風の又三郎』の場所Ⅱ」を『明星大学教育学部研究紀要５』に発表した。これは、「九月八日」の章の謎の声が、最初期の坪田版『風の又三郎』と、その後の全集では、異なることを指摘したものだ。

(3)現代詩人との詩的評価班での活動が高まりを見せ、杉中昌樹と共同で研究報告書の刊行を行った。非売品であり、書店などにも並ばないので、内容をやや詳しく紹介しておけば、冊子名は『詩の練習－宮沢賢治特集』で 2015 年 12 月 15 日、明星大学教育学部平澤信一研究室発行。日本学術振興会科学研究費補助金：課題番号 25370238 報告書と明記してある。

巻頭に天沢退二郎「『風の又三郎』の謎にせまる－さいかち淵はなぜかくも深きや－」、順に、入沢康夫「研究漫筆番外篇　語彙辞典へのささやかな寄与、二題」、野村喜和夫「対話－アレンジ宮澤賢治」、生野毅「〈そら〉の封印　〈空〉の裂け目－ブドリが本当に遺したもの－」、甘楽順治「怪獣（みやざわの）」、季村敏夫「たける野の風と空」、田中綾「宮沢賢治と中原中也－福島泰樹の中也論を補助線に」、中本道代「オホーツク晩歌に応える」、暁方ミセイ「賢治－ユングメモ」、浜田優「生命と幽霊－「心象スケッチ」をめぐって」、亀井志乃「宮沢賢治と創作－ふと訪れる想念に形を与える営み－」、吉田文憲×平澤信一「「家族」と「鳥」というモチーフ－「春と修羅」から『銀河鉄道の夜』の方へ－」、杉中昌樹「宮沢賢治と書くことの情熱」、平澤信一「あとがき」。これらはおよそ二箇月に一回、行われてきた研究会の成果でもある。

天沢の論文には、行間筆写稿における綴じ穴の発見など、新校本全集以降の最新の研究成果が織り込まれ、『風の又三郎』第四六葉から第五〇葉の複写稿が掲載されている。
いずれも初めて活字になる原稿である。

平澤は同研究会において、2015 年 12 月 12 日に「『風野又三郎』と『風の又三郎』のあいだ」という草稿生成論的研究の発表を行っている。また、2016 年 3 月 20 日には、平澤のコーディネートにより、大妻女子大学において、宮沢賢治学会春季セミナーin 東京を行い、詩人の天沢退二郎、吉田文憲と共に「『風の又三郎』とはだれか」という公開シンポジウムを行った。150 名近い参加者が集まり、『風の又三郎』第一葉、第二葉、第一四葉、第二一葉、第四三葉、『風野又三郎』清書後手入稿第三一葉の複写稿が資料として配布され、本文校訂について検討された。

(4)西暦 2016 年は、宮沢賢治生誕 120 年であった。ひとつ、科研費の成果として喜ばしかったのは、2016 年の中頃から筑摩書房が新字新仮名による『宮沢賢治コレクション』の刊行を本格的に模索し出し、研究分担者の栗原敦と杉浦静が、その編集委員に任じられたことであった。監修者は、天沢退二郎と入沢康夫。そこには当然、私たちが研究を続けてきた『風の又三郎』が含まれるのであって(しかも第一回配本)、『風の又三郎』の新字新仮名テキストを科研費で刊行するという、研究計

画当初の目的は、出版社による刊行という幸運な成果をもたらしたのであった。

8 月には、岩手県花巻市で国際研究大会が催された。そこで記念館の学芸員に依頼したのは、賢治の草稿上の落書きの使用許可であった。賢治全集は文字テキストとしては、ほとんど完璧なものだが、欄外に描かれた落書きまでは伝えきれていない。宮沢賢治学会は、11 月 26 日に広島県福山市で、宮沢賢治学会地方セミナーを行ない、筆者はこれに参加して、賢治の草稿に遺された落書きについて発表し、その内容を明治学院大学の『言語文化』第 34 号に寄稿した。この誌面には、研究分担者の栗原敦、杉浦静も参加しており、これで四年間続いた科研費の仕事から退くことになる。宮沢賢治『風の又三郎』の新字新仮名本文の実現は、結果的に 12 月刊行の『宮沢賢治コレクション』によって果たされたのである。しかし、この度の大きな課題であった「三年生」の問題は未だ解決していない。ただ、そのようにして数々の論文を呼び起こすことが、逆に、賢治テキストの魅惑ともなっており、作品に限らず批評をお互いに享受し合うことが、宮沢賢治の新たな可能性として垣間見えたようにも思えたのである。そして何よりも、この度の新字新仮名コレクションの気運をもたらしたのは本研究であり、その成果を自負するものである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

① 平澤　信一、新校本全集資料篇未収録生前批評―麺麭/銅鑼、宮沢賢治学会イーハトーブセンター会報、査読有、第 54 号、2017、pp.32
② 平澤　信一、賢治原稿の秘密―《落書き/花壇設計/肖像画》、言語文化、査読有、第 34 号、2017、pp.36-41
③ 平澤　信一、物故同人・宮沢賢治の生前評価―『歴程』創刊まで、歴程、第 600 号、2016、pp.62-69
④ 平澤　信一、生誕一二〇年の宮沢賢治、日本近代文学、査読有、第 95 号、2016、pp.136-142
⑤ 天沢　退二郎、岡村　民夫、栗原　敦、杉浦　静、平澤　信一ほか、宮沢賢治ビブリオグラフィー2015、宮沢賢治研究 Annual、査読有、第 25 号、2016、pp.1-95
⑥ 平澤　信一、宮沢賢治とナンセンス、こども文学の実験―ざわざわ、査読有、第 1 号、2015、pp.185-188
⑦ 天沢　退二郎、岡村　民夫、栗原　敦、杉浦　静、平澤　信一ほか、宮沢賢治ビブリオグラフィー2014、宮沢賢治研究 Annual、査読有、第 25 号、2015、pp.1-103
⑧ 平澤　信一、宮沢賢治『風の又三郎』の場所Ⅱ、明星大学教育学部研究紀要、査読有、第 5 号、2015、pp.73-81
⑨ 平澤　信一、賢治研究者としての吉田文憲さん、現代詩手帖、査読有、第 57 巻 6 号、2014、pp.36-37
⑩ 平澤　信一、賢治受容史「亡くなってからの賢治」、別冊太陽、査読有、第 218 号、2014、pp.146-151
⑪ 天沢　退二郎、岡村　民夫、栗原　敦、杉浦　静、平澤　信一ほか、宮沢賢治ビブリオグラフィー2013、宮沢賢治研究 Annual
⑫ 平澤　信一、三つの祈り―宮沢賢治、吉原幸子、アンドレイ・タルコフスキー、宮沢賢治学会イーハトーブセンター会報、査読有、第 48 号、2014、pp.4-7

〔学会発表〕（計 6 件）

① 平澤　信一、賢治の《落書き/花壇設計/肖像画》の謎、宮沢賢治学会イーハトーブセンター、2016.11.26、福山大学
② 天沢退二郎、平澤　信一、吉田文憲、『風の又三郎』とはだれか、宮沢賢治学会イーハトーブセンター、2016.3.20、大妻女子大学
③ 平澤　信一、『風野又三郎』と『風の又三郎』のあいだ、詩と哲学のあいだ研究会、2015.12.12、アトリエ・エルスール
④ 平澤　信一、インド宮沢賢治国際学会に参加して、宮沢賢治学会イーハトーブセンター、2013.9.22、岩手県花巻市 NAHAN プラザ
⑤ 平澤　信一、三つの祈り―宮沢賢治、吉原幸子、アンドレイ・タルコフスキー、宮沢賢治国際学会、2013.9.12、インド・ニューデリー・ネルー大学
⑥ 平澤　信一、『風の又三郎』ふたたび―流布本文と《耕一/耕介》の問題、国学院大学国文学会、2013.6.23、国学院大学

〔図書〕（計 2 件）

① 平澤　信一ほか、明星大学教育学部平澤信一研究室、詩の練習(日本学術振興会科学研究費補助金:課題番号 25370238 報告書)、2015、64(42-51,61-63 頁)
② P.A.ジョージ編、天沢　退二郎、岡村　民夫、栗原　敦、杉浦　静、平澤　信一ほか、Northern Book Centre, New Delhi、宮沢賢治と共存共栄の概念:賢治作品の見直し(インド宮沢賢治国際学会報告集)、2014、191(157-162 頁)

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
平澤信一（HIRASAWA Shinichi）
明星大学・教育学部・教授
研究者番号：20270316

(2)研究分担者
岡村民夫（OKAMURA Tamio）
法政大学・国際文化学部・教授
研究者番号：00297988

栗原敦(KURIHARA Atsushi)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号:40086822

杉浦静(SUGIURA Shizuka)
大妻女子大学・文学部・教授
研究者番号:50140108

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）